

復興まちづくりにおける景観・都市空間形成のあり方に関する検討調査

調査の背景・目的

- 特色ある地形や風景が地域の魅力となってきた東北の被災地において、震災からの復興は早急な対応が求められるとともに、地形の改変を含む大規模な事業の実施が想定される。
- 機能性や事業性といった基本的諸元の検討のみならず、被災地を魅力に富んだ美しい地域として復興させるため、良好な景観や都市空間形成を図る上で重要と考えられる事項についてとりまとめる。



調査内容

- 被災地の多くにおいて、復興計画が策定されたところ。今後の具体的な事業段階に向けて、以下の視点に基づき、景観や都市空間形成を図る上で重要と考えられる事項についてチェックポイントを整理。

<調査の視点>

➤ 復興の初期段階から配慮すべき事項を整理

都市デザイン上の配慮は、とすれば「付け足し」のデザインに陥り、返って不自然な景観を生む要因になるほか、必要以上の華美な意匠によるいたずらなコスト増加の懸念。初期段階から無理のない配慮を行うことで、後の段階で大きく効いてくると考えられる事項を中心に検討。

➤ 被災地で実践的に役立つとりまとめ

被災地では時間的・人力的制約のもとでの復興が想定される。被災地で実践的に役立つよう、景観の具体的なノウハウというよりも、むしろ避けることが望ましい一般的事項を中心にチェックポイントとして整理。

➤ 総合的視点による検討

復興まちづくりは極めて多岐に渡る分野を包括するものであり、分野横断的、総合的な視点が必要。本検討に際しては、景観のみならず、土木、建築、都市計画、都市史、生態、防災の各分野の専門家と議論を重ね整理。

➤ 防災の観点も踏まえた検討

復興まちづくりという性格から、景観面だけに留まらず、防災デザインを調和させる観点からも検討。

◆基本的事項

- 自然環境への配慮と地場素材の活用
- 歴史の継承と未来への伝達
- 総合的な視点からの実践

◆チェックポイント

- 都市構造・土地利用
 - ・ 必要以上の市街地拡大を避ける
 - ・ 将来の低地部への回帰を避ける
- 新しい市街地の整備
 - ・ 地形や自然環境への配慮を後回しにしない
 - ・ 親しみやすい街並み形成に向けて
- 従前地における市街地復興
 - ・ 土地の記憶を後世に伝える
 - ・ 従前の課題を忘れない
- 防災のデザイン
 - ・ 避難しやすい市街地形成を図る
 - ・ 防災施設の整備と一体的に取組む
 - ・ 総合的取組により防災文化の定着を図る

調査成果

- 『復興まちづくりにおける景観・都市空間形成の基本的な考え方 -事業段階に向けての都市デザイン面からの配慮事項-』の策定
 - ・ 平成23年12月に中間的とりまとめを行い、「東日本大震災の被災地における市街地整備事業の運用について（ガイダンス）」と併せ被災地で説明会を実施。
 - ・ 上記ガイダンスの別添資料として、平成24年1月に中間とりまとめを被災自治体に技術的助言として発出。
 - ・ 平成24年4月に最終とりまとめを公表。